



ぼうさいマップ作り2019

自治会などと連携をし、地域の子もたちが楽しみながらまちを見て回り、ぼうさいマップを作製する安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」の取り組みを行いました。企画経緯としては近年台風や水害、南海トラフ地震などが懸念されている静岡県において防災意識を高めることと、子どもと地域自治会が協力をして年齢、性別を超えた機会をJリーグクラブが創出する。

活動場所 : 沼津市門池地区

取組テーマ : 防災・震災復興

協働者 : 学校／行政

協働者名 : 門池自治会、一般社団法人 日本損害保険協会、沼津市

活動で工夫した点

今回は初の試みということと、特別支援学校との連携だったので、防災についての認識を高めるため、事前学習を実施して、危険な物などの予備知識を学校にも協力してもらい時間を設けてもらったことと、子どもたちが主役になるよう、あくまでクラブスタッフと自治会の担当者はサポートに回ることを徹底しました。

活動で大変だった（苦労した）ポイント

クラブからの提案に対し、自治会の理解を得るために沼津市との協力体制で数回のプレゼンをし、ようやく理解をし協力をしてくれる自治会との連携ができるまではかなりの労を要したことや、ぼうさいマップ作りはクラブとしても初の試みだったためスタッフの研修などに時間を費やしたこと。

クラブや地域の活動後の変化

活動後、自治会の評価も上がり、他の地域でも取り組みたいという相談があったことや、特別支援学校での取り組みにより障害者理解が深まったことで、より多くの取り組みのプランがたてられるようになった また沼津市の理解も深まり、協力体制がより強固になりました。



協働者の声

特別支援学校の先生：生徒が楽しみながらぼうさいについての意識が高まったので、非常によかった。

自治会役員：普段は見過ごしているような箇所なども子ども達の手で発見されることにより、改善しなければならない点があったことや一緒に自分の地域を見直す機会ができた。

参加者の声

参加した子ども：歩くのがすごく疲れたけど、色々な物を発見できて楽しかった。

活動の「ここぞ!」というPRポイント

自治会、行政と連携をし、地域課題に取り組むことは非常に困難ではあり、小さいステップではあるがこういった活動を実現できたことは大きなステップだと強く思います。

補足

今回のぼうさいマップ作りというアイデアはシャレンの勉強会から学び、ここまですり組むことができました。多くの人との知識の共有やすり組むを知ることによって、地域へ還元できることを学んだ。クラブは単なる地域との連携を行うだけの機関ではなく、日本全国に点在していることでの知識や経験を共有していくことで、自地域に帰ったときに地域へ還元できる存在でもあることが非常に大きな役割を担っていると思います。